

「夏の底泥」

—初稿—

2024/9/8

雨森 れに

〈人物表〉

高野 結菜 (14) 居場所がないと感じている女の子

大石 智弘 (14) 結菜に恋している

高野 葉介 (64) 結菜の祖父

高野 順平 (45) 結菜の父親

友達 A 男の子。結菜と智弘と同年

友達 B 男の子。結菜と智弘と同年

〈ログライン〉

両親の離婚待ちをする間田舎に預けられた結菜が、幼い頃に意地悪をしてきた智弘を誤って殺してしまい、田舎に二度と来ない選択をする。

〈ねらい〉

テーマ触媒：おわり 意地悪してきた相手との関係のおわり。

間違つて殺しちゃったというシチュエーションが書きたかった。

1. 溪流（昼）

五年前。広く、泳げるぐらい溪流。
浅瀬で川遊びしている高野結菜（9）と大石智弘（9）、友達A（9）と友達B（9）。
結菜、綺麗な小石を見つけて、智弘の肩を叩く。
智弘、結菜を突き飛ばす。
結菜は尻もちをついて水浸し。
智弘 「よそ者のくせに。おい、行こうぜ」
智弘、AとBを連れ、その場を去る。
結菜、悔しそうに唇を噛む。

2. 車・中（昼）

山の中を走る、四人乗りのコンパクトカー。
高野順平（45）が運転している。
左後部座席に高野結菜（14）。唇を噛んで、流れる景色を見ている。
ミラーから結菜の様子を伺う順平。
順平 「智弘くん、元気かな」
結菜、窓から視線を離さずに、
結菜 「だどいいよね」
順平 「よく遊んでたよね。今年はLINEでも交換しなよ」
結菜 「私、話下手だから……」
結菜、崖下に溪流を見つける。

3. 溪流（昼）

岩の上で寝転がる大石智弘（14）。足を水につけて涼を取りながらスマホを触っている。
崖沿いの道から車のエンジン音。
智弘、崖を見上げる。
ガードレールの向こうを順平の車が通る。
光が反射し智弘が目細める。

4. 車・中（昼）

溪流にいる智弘を見つめる結菜。唇を噛む。

順平 「ねえ、ゆいちゃん」

結菜、驚いて順平を見る。

横顔からは順平の表情は読み取れない。

順平 「話し合いが終わったら連絡するね」

結菜 「あ、ああ。うん」

結菜は気まづくなり、また外を眺める。
すでに溪流は見えない。

5. 葉介の家・外観（昼）

村にある、田舎の家屋。庭とは別に砂利が敷かれている広い駐車場がある。

駐車場に入っていく順平の車。

6. 葉介の家・居間（昼）

十畳ほどの和室。仏壇には祖母の写真。

麦茶を出す高野葉介（64）。

葉介 「遠い所お疲れ様。ゆいちゃん、見ない間に随分おねえさんになったねえ」

結菜 「もう中学生だもん。それにね、この前、県の作文コンクールで優勝したんだよ」

順平 「それ、聞いてないんだけど」

結菜 「えっと、お母さんには言ったよ」

順平、不機嫌そうに大きな溜め息をつく。

葉介 「まあまあ。ゆいちゃん、さつき智弘くんがそのへん歩いてたよ。久しぶりに挨拶でもどうだい」

結菜、智弘と会いたくないのを誤魔化すように、
「それよりおじいちゃんのトマト食べたいから畑行ってもいい？」

葉介 「（嬉しそうに）もちろん。おいしそうな取っっておいで」

葉介、盆ザルを結菜に渡す。

見送る葉介と順平。

7. 道（昼）

畑に囲まれた小道。

ザルをぶらつかせながら結菜が歩いている。
智弘、後ろから、

智弘 「なあ」

結菜、振り向く。

智弘 「何年ぶりだよ。全然帰ってこなかったじゃん」

結菜 「えっと……智弘くん？ だよね？」

智弘 「顔も忘れてたってわけ」

結菜 「違うよ！ なんていうか、久しぶりだから」

智弘、舌打ち。

智弘 「明日の昼、川で待ってるから」

結菜は川という言葉に眉をひそめる。

結菜 「なんで？ 明日はおじいちゃんというもん」

智弘 「じいさん、さっきいって言ってたよ」

智弘、にやりと笑う。

家へと走り出す結菜。

8. 葉介の家・外観（昼）

駐車場に順平の車はない。

9. 葉介の家・居間（昼）

縁側へ乱暴にザルを置き、室内に入る結菜。息が荒い。

結菜 「おじいちゃん！」

葉介 「おかえり。さつき智弘くんが来てね。明日みんなで川遊びしたいって。よかったねえ」

結菜、葉介の笑みに脱力して、

結菜 「でも、次は聞いてほしい。お父さんもお母さんも、いつもそうだから……（唇を噛む）」

葉介、はっとした顔。

葉介 「ゆいちゃん、ごめんね」

結菜 「うん。だいじょーぶ」

10. 溪流・浅瀬（昼）

翌日の昼。曇天。

岩の上に智弘が座っている。
近づく結菜。

智弘 「よお」

結菜 「AさんとBくんは？」

智弘 「あいつらは上の方いるよ」

智弘、溪流の先にある小さい滝を指差す。

11. 溪流・滝上(昼)

滝の上にある空間。木々に囲まれて薄暗い。

結菜 「誰もいないけど……」

智弘 「呼んでねえもん」

結菜 「え？」

智弘 「お前に謝りたくて」

結菜 「うそ。よそ者に話なんかしないでしょ」

智弘 「あの時は間違っちゃっただけで！ お前が急に」

結菜 「間違つてないよ。どうせよそ者だもん」

智弘 「話聞けよ！」

智弘が結菜の腕を掴む。

結菜 「やめて！」

反射的に智弘を突き飛ばす結菜。

智弘、そのまま滝へ落ちていく。

滝の音に混ざって着水音。

結菜、両手と智弘のいた場所を交互に見る。

呼吸が早くなり、体が震える。

ゆっくりと、その場を離れる。

12. 葉介の家・居間(昼)

青白い顔をした結菜が帰ってくる。

葉介 「ゆいちゃん、どうした。具合でも悪いんか」

結菜 「川……」

葉介 「川で智弘くんたちと遊ぶんだろ？ 仲直りできなかった

んか？」

結菜 「おじいちゃん、私……」

結菜、肩を震わし泣き始める。

結菜 「違う。違うの。わからなくて帰ってきちゃったの」
葉介 「ああ、道がわからなかったんか。五年ぶりだもんな。じ
いちゃん気が回らなくてごめんな」

葉介、結菜を抱きしめ、頭を撫でる。
結菜、声をあげて泣く。

13. 村・外（夜）

住民が智弘を探している。懐中電灯の光が行き交い、
慌ただしい雰囲気。

14. 葉介の家・外（夜）

捜索隊の対応をする葉介。

住民 「高野のじいさんのところに顔出したのが昨日？」

葉介 「今日は川に行くって言ってたぞ」

住民 「川？ 今から何人かで川行ってみるか」

葉介 「それなら自分も一緒に行こう」

× × ×

縁側に隠れるようにして様子を伺う結菜。

15. 葉介の家・居間（夜）

横になって天井を見つめる結菜。

涙が溢れて、両手で顔を押しさえる。

着信音。相手は順平。

結菜 「もしもし。え？ こんなときばかり私に確認しないで
よ……」

少し考えて、

結菜 「じゃあお母さんのところ。ここにはもう来れなくていいか
ら」

結菜、そっと唇を噛む。

16. 溪流（夜）

浅瀬の流木に引っかかっている智弘の腕。
川のせせらぎ音。

おわり